

豊能医療圏 がん医療ネットワーク協議会 活動報告

[平成29年3月7日 大阪府がん診療連携協議会 資料]

市立豊中病院

大阪大学医学部附属病院

組 織 図

豊能医療圏がん医療ネットワーク協議会

がん登録部会

緩和ケア部会

がん検診情報部会

がん地域連携部会

がん研究部会

【参加団体】

- ◆医師会
- ◆保健所
- ◆市町がん検診担当課
- ◆ホスピス・在宅診療所
- ◆がん診療拠点病院

今年度より
参加

がん登録部会

〔28年度 活動報告〕

1) 肺がんの院内がん登録データを用いた現状分析

2013年、2014年、2015年症例の院内がん登録データから、住所、進行度や治療内容等のベンチマークを作成し、自施設の登録状況の把握と豊能医療圏での肺がんの現状について比較し分析を行った。

結果 全国・大阪府との比較

登録数のステージ別割合には差はなかった。

豊能医療圏 ステージ別 初回治療の割合

I 期 手術症例が多く、放射線療法では少なかった。

II 期 手術症例が多い。

III 期 薬物療法が多く、薬物療法と放射線療法の併用がすこし少ない。

IV 期 薬物療法が多い。

2) 院内がん登録の精度管理

全国がん登録開始後の各病院の現状について情報交換を行った。

がん登録部会

〔29年度 活動目標〕

1) 胃がんの院内がん登録データを用いた現状分析

2013年、2014年、2015年症例の院内がん登録データから、住所、
進行度や治療内容等のベンチマークを作成し、自施設の登録状況の把握と豊能
医療圏での胃がんの現状について比較し分析を行う。

2) 院内がん登録の精度管理

各施設連携し情報を共有することで、精度の高い院内がん登録データを構築していく。

緩和ケア部会

【部会活動のメインテーマ】 緩和ケアの普及を図る。

〔28年度 活動報告〕

今年度より
医師会・ホスピス・在宅診療所も
緩和ケア部会に参加

1) 緩和ケアにかかる地域医療機関との連携強化

緩和ケアに関する病診・病病連携についての現状の問題点と その改善策のアンケートを行った。

連携機関同士の情報収集・共有・伝達についての意見が多数であった。

2) 緩和ケア(PEACE)研修会の受講促進

圏域内の各拠点病院の受講対象者数、定員、目標達成に向けた取り組みについて集約し共有した。

圏域内の初期研修2年目から初期研修修了後3年目までの医師	296人
圏域内で開催の研修会の定員	356人

3) 緩和ケアの普及促進 ～医療従事者向けの研修～

部会に参加する5病院が医療従事者向け「緩和医療研修」を開催。

4) 患者及び家族が心の悩みや体験等を語り合う場の提供

拠点病院主催のがんサロンポスターの更新版を作成。



緩和ケア部会

〔29年度 活動目標〕

1) 緩和ケアにかかる地域医療機関との連携強化

提供すべき情報は何かを検討し、緩和ケアについて円滑な連携に繋げる。

地域連携を目的とした地域での研修や会合などに相互に参加する。

2) 緩和ケア研修会の受講促進

3) 緩和ケアの普及促進

4) 患者及び家族が心の悩みや体験談を語り合う場の提供

がん検診情報部会

〔28年度 活動目標1〕

3)がん予防のための普及啓発

子どもや障がい者向けに
がん情報を提供するため、
コンテンツを協議会ホームページに
リンク情報として追加掲載した。

4)がん手術件数の定義の統一

8月に豊能医療圏内の
がん診療拠点病院(8病院)の診療情報管理士等をメンバーとするワーキンググループを立ち上げた。

豊能医療圏がん医療ネットワーク協議会
ホームページ

がん教育に関するご案内

豊能医療圏がん医療ネットワーク協議会では、がん予防や早期発見・早期治療のためのがん検診の受診、最新の治療情報の提供など、がんに対する知識を広く普及啓発をしています。小中学校での出前授業や教職員向け研修会に、がん診療拠点病院のがん治療医やメディカルスタッフ等の専門家、がん体験者等を講師として派遣するなど、がん教育の推進にも取り組んでいます。がん教育の関連情報はリンク情報をご活用ください。最新の情報は各機関団体にご照会ください。

リンク情報

- 文部科学省「がん教育」(文部科学省 ホームページ)
- がんの教育総合支援事業 研究授業教材「がんについて学ぶ授業」(大阪府 教育委員会 ホームページ)
- 「がん教育」(日本対がん協会ホームページ)

豊能医療圏がん医療ネットワーク協議会

がん検診情報部会

〔29年度 活動目標〕

1)がん教育の推進

児童生徒向け出前授業や教職員向けがん研修の場を増やしていくため、各市町がん検診担当課から各市町教育委員会への働きかけを強化する。

豊能圏域の地域特性に即したがん教育推進のための教材作成について、がん診療拠点病院の医師を中心に検討を進める。

2)がん手術件数の定義の統一

がん手術件数のカウントについて、平成28年度に組織したワーキンググループのメンバーで問題整理や解決に向けた取り組みを進める。

3)がん医療公開講座の開催

次回実施の方向性等について検討する。

がん地域連携部会

○〔28年度 活動目標2〕

2)クリティカルパスチーム

各病院の問題点を集約し、今年度取り組んだことを一覧表にまとめ、各病院が運用改善につなげていく参考とした。

3)リハビリテーションチーム

がんリハビリテーションについてのリーフレット等を作成する前段階として、今年度は既存の書籍等から情報の収集を行った。

がん地域連携部会

○〔29年度 活動目標〕

1)セカンドオピニオン

平成27年度に作成したリーフレットが多くの方の目にとまる工夫及びリーフレットとは別の周知方法も検討する。

2)リハビリテーション

講演会を企画するなど、がんリハビリテーションを受けるメリットを、患者・医療スタッフに対し、啓発する。

がん研究部会

(1) 小児がん対策

● 小児がん診療に関わる医療機関ネットワークの構築

阪大病院は、大阪府内のがん診療連携拠点病院等と連携し小児がん患者の診療に取り組んでいる。特に骨軟部腫瘍、網膜芽細胞腫、肝移植の必要な肝芽腫については大阪府内から患者が集積しており、小児科、小児外科、眼科、整形外科が連携して治療にあたっている。また、近畿若手小児血液クラブを組織し、若手医師の教育も行なっている。更に、オンコロジーセンター内にはAYA世代相談室を設置している。

(2) 骨髄移植および臍帯血移植の推進

● 骨髄移植および臍帯血移植の現状

造血幹細胞移植の件数は年間平均27件（直近3年）である。移植の幹細胞ソースとしては血縁、骨髄バンク、臍帯血のすべてに対応している。特に骨髄バンクからの移植が多く6割を占めている。

(3) がん研究の推進

● 多施設臨床研究の推進（特定非営利活動法人SCCRE（エスキュール））

がん臨床研究を実施する7つの研究会（消化器がん、乳がん、肺がん、泌尿器系がん、骨髄腫等）を支援している。

● 臨床研究中核病院

平成27年8月に臨床研究中核病院の認定を受けた。質の高い臨床研究支援のために更に未来医療開発部を整備する。

(4) 高度先進医療の推進

● 以下の先進医療を現在実施中である

1. 腹腔鏡下広汎子宮全摘術（先進医療A）
2. パクリタキセル静脈内投与及びカルボプラチン腹腔内投与の併用療法（先進医療B）
3. 周術期カルペリチド静脈内投与による再発抑制療法（先進医療B）
4. 11C標識メチオニンを用いたポジトロン断層撮影による再発の診断 頭頸部腫瘍（先進医療B）
5. 内視鏡下手術用ロボットを用いた腹腔鏡下胃切除術（先進医療B）
6. 放射線照射前に大量メトトレキサート療法を行った後のテモゾロミド内服投与及び放射線治療の併用療法並びにテモゾロミド内服投与の維持療法（先進医療B）
7. 11C標識メチオニンを用いたポジトロン断層撮影による診断 初発の神経膠腫が疑われるもの（先進医療B）

(5) 人材育成

● がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン（大学院）

17コースで101名が在学中（薬物療法、放射線治療、緩和医療、外科治療、放射線物理、細胞診、がん看護等）